

市民と市長の

対話集会

- 消防・救急 -

2026.01 芦屋市



1

そもそもなぜ、**対話**なのか

2

対話の前に

知っていただきたいこと

3

みなさまとの**対話**

Why “Dialogue”

そもそもなぜ、対話なのか

1





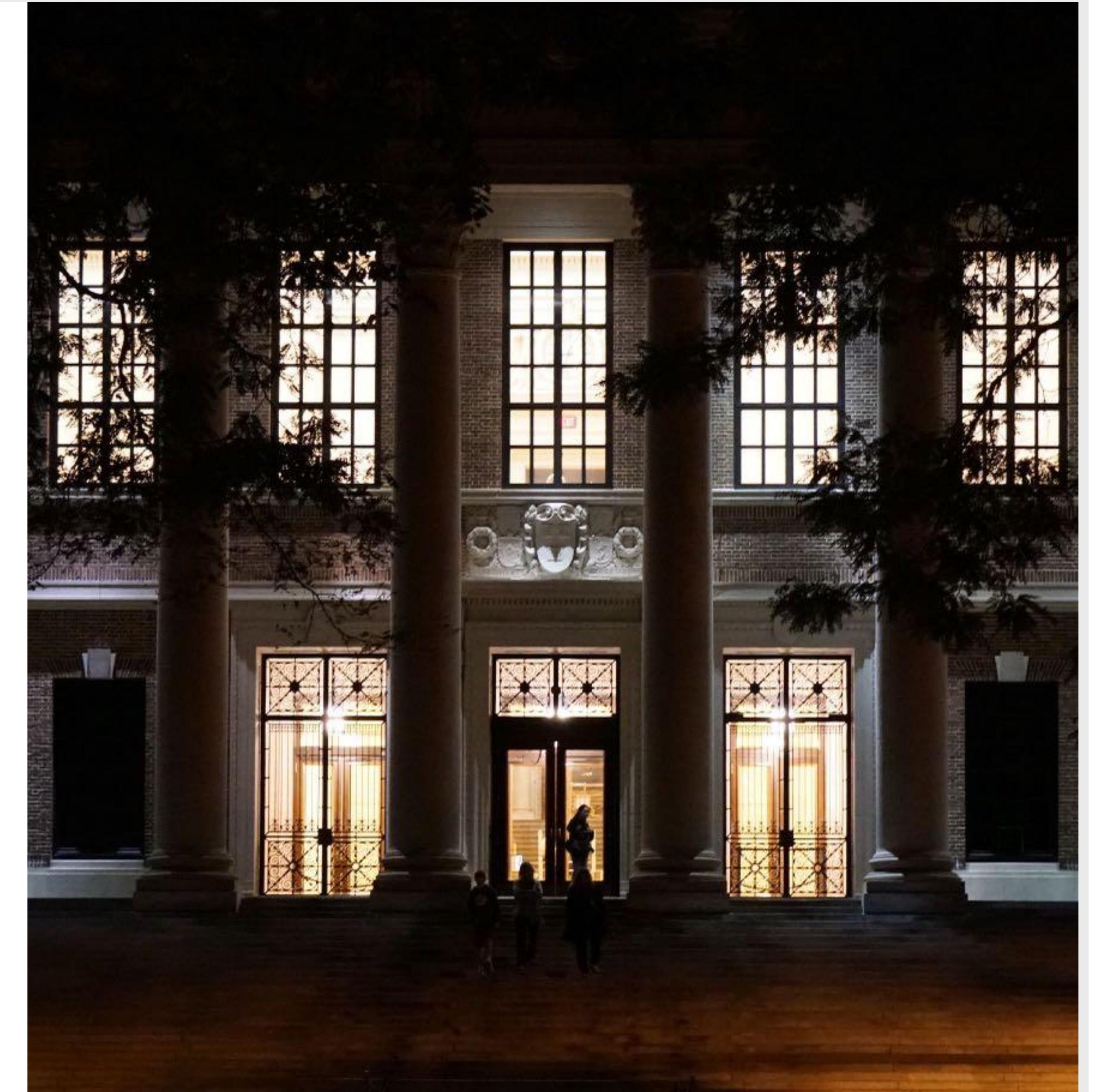
芦屋だからこそ、対話で創る
世界で一番住み続けたい街

市民と市役所は
対立ではなく、
共創する関係です

Our Vision

対話の前に知っていただきたいこと

2

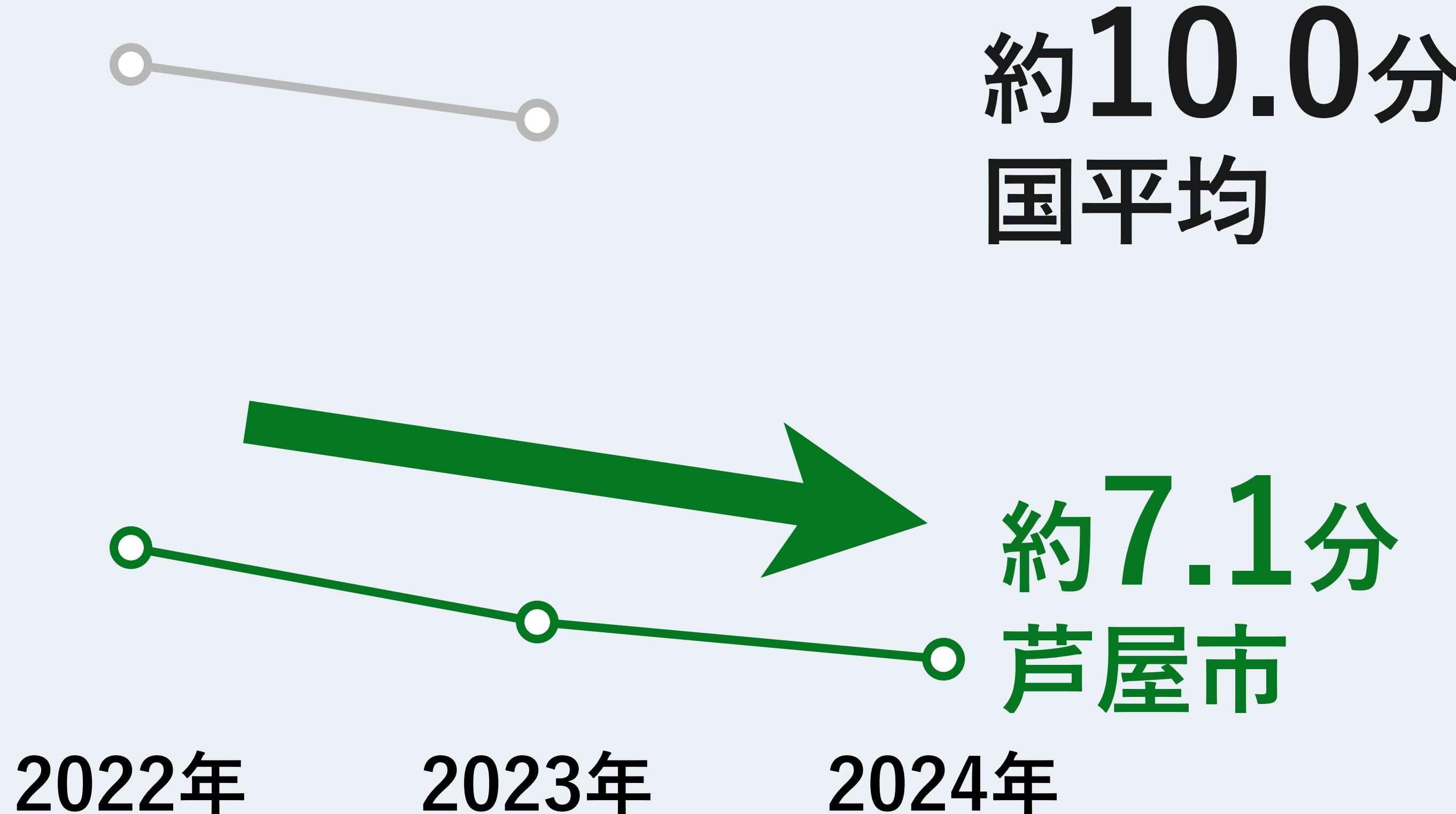


市民の皆さまの命と財産を守る



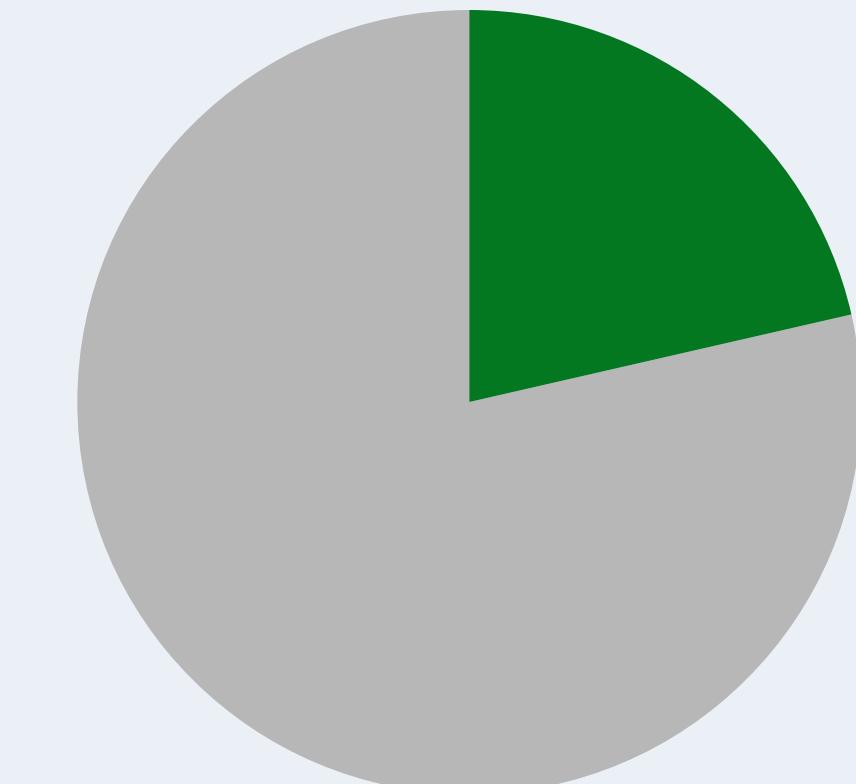
救急講習をぜひ受講してください

現場到着時間

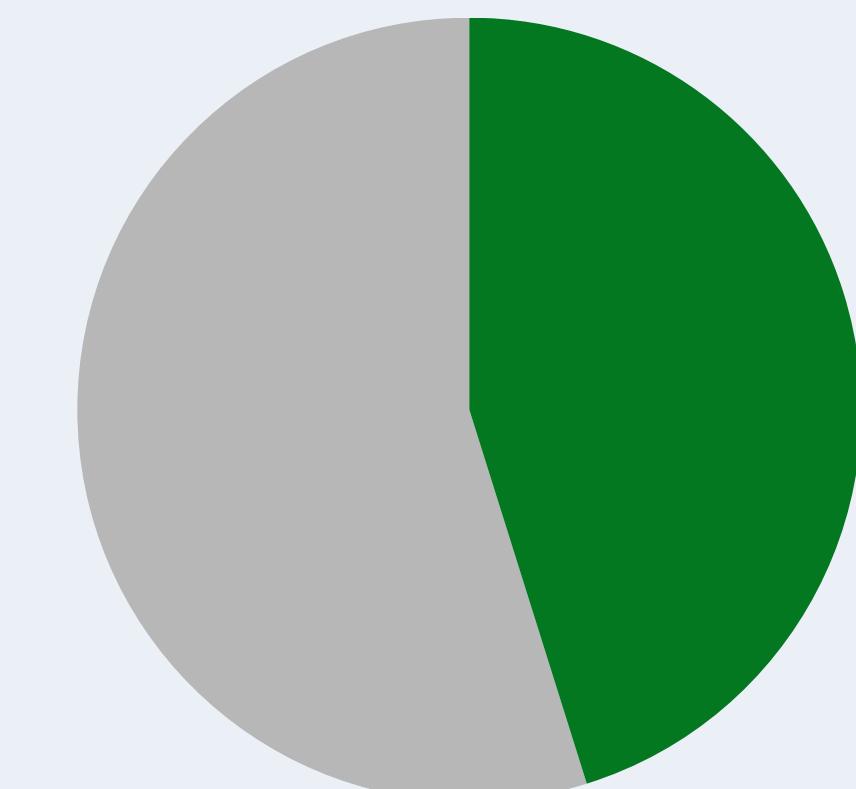


応急手当が、
命を救う大きな鍵
心停止事例での
1か月後生存率は
応急手当
あり：14.8%
なし：7.3%

迷ったら#7119、命の危険は119

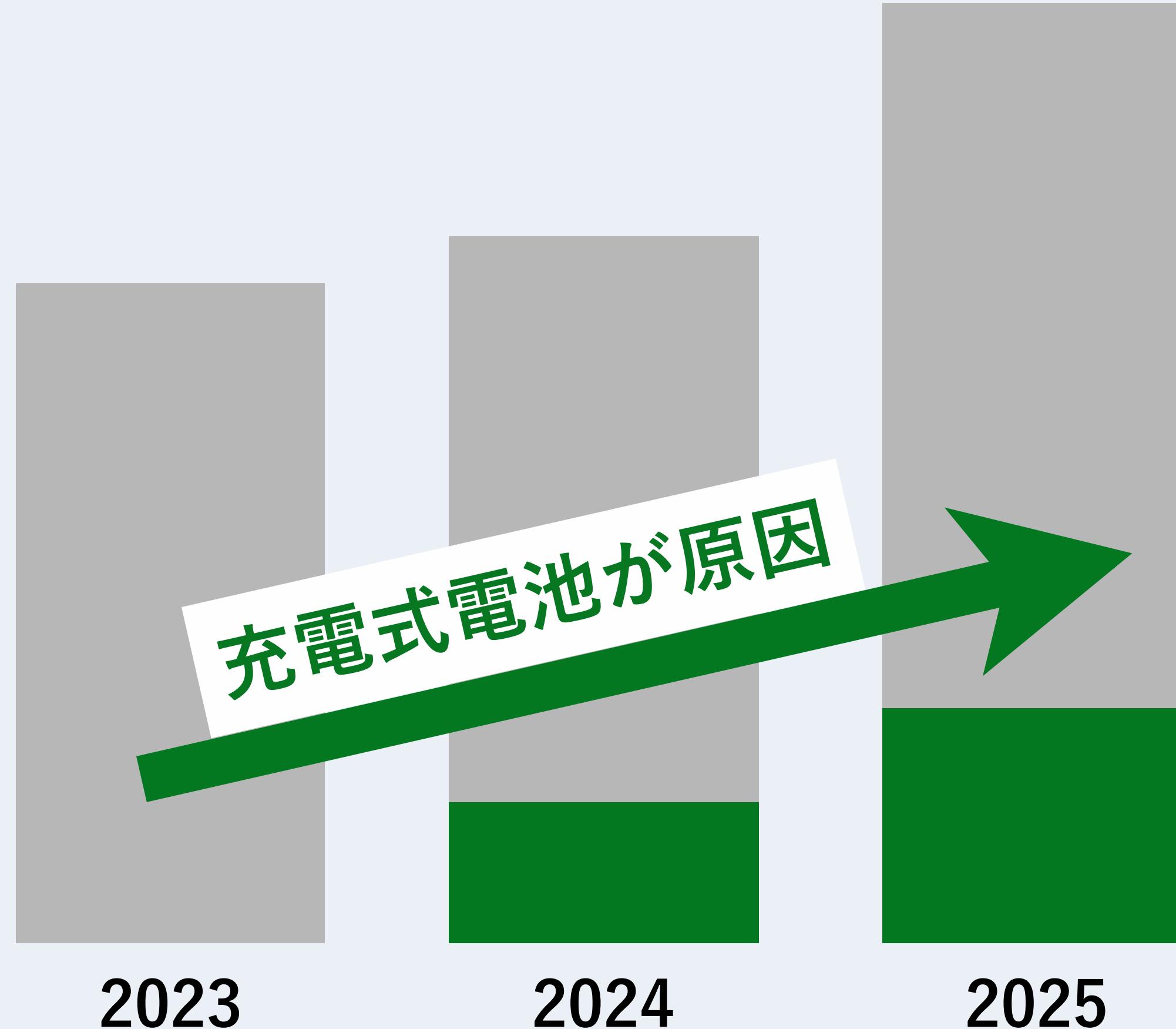


緊急性のない通報
21.4%



初診時「軽症」と
診断された方
45.2%

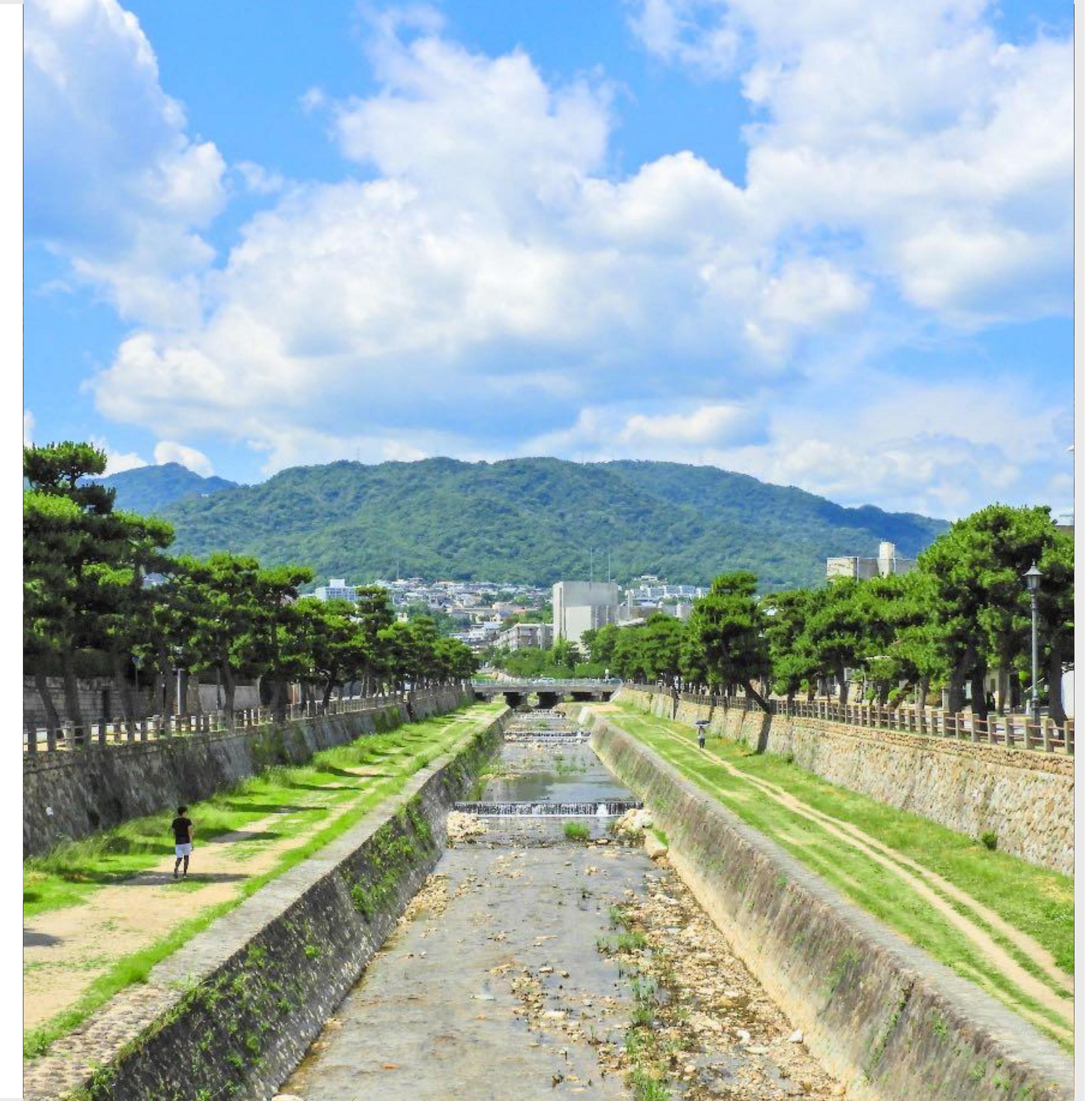
火災件数、少しづつ増加中です



充電式電池は、技術基準に適合したPSEマークのある電池の使用を。使用後市の回収に出す際は、他のごみと分けて、中身の見える袋に入れてください。

3

Dialogue みなさまとの対話



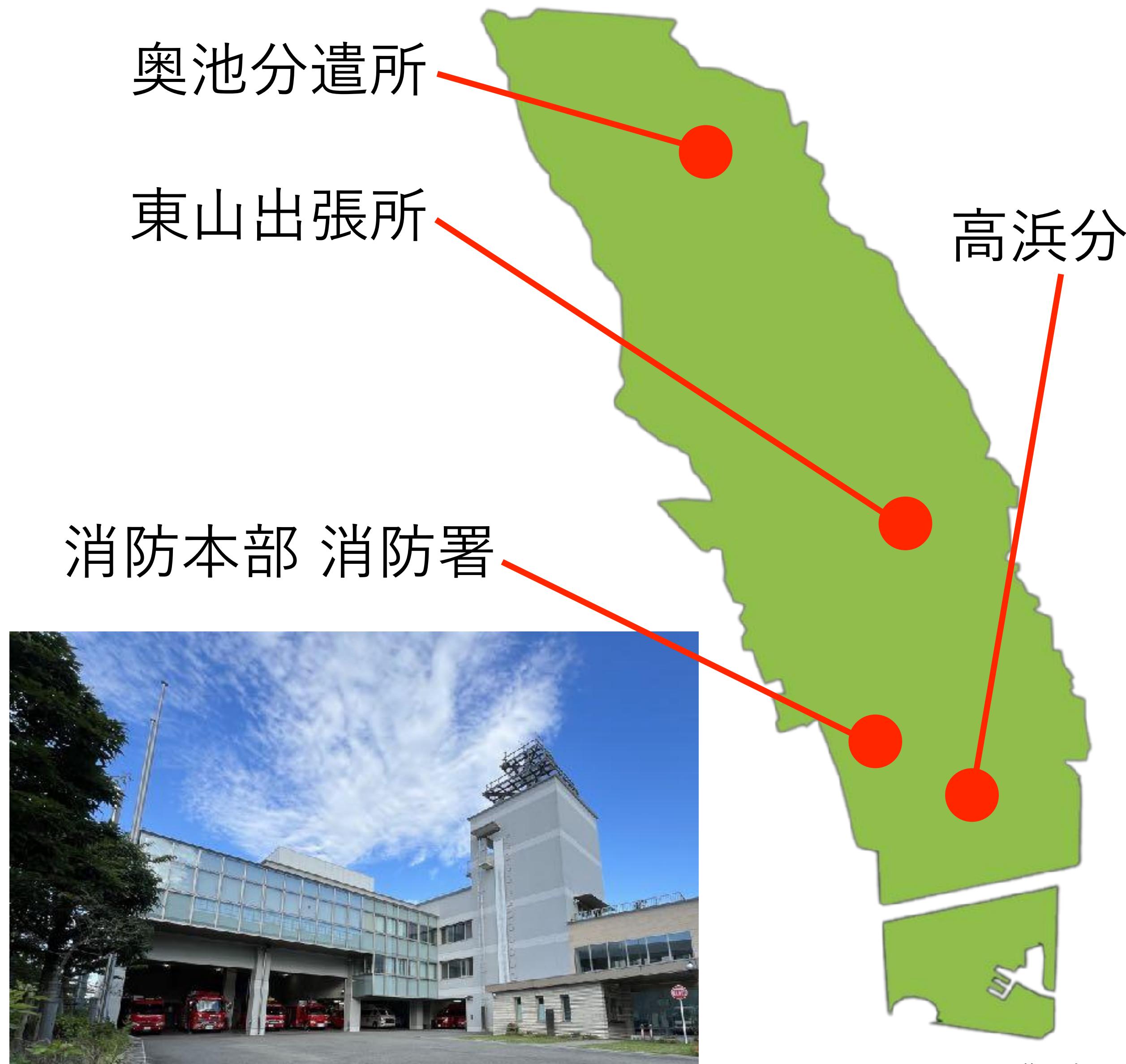
つくりたいのは、
要望の場ではなく
対話の場

お願いしたいこと

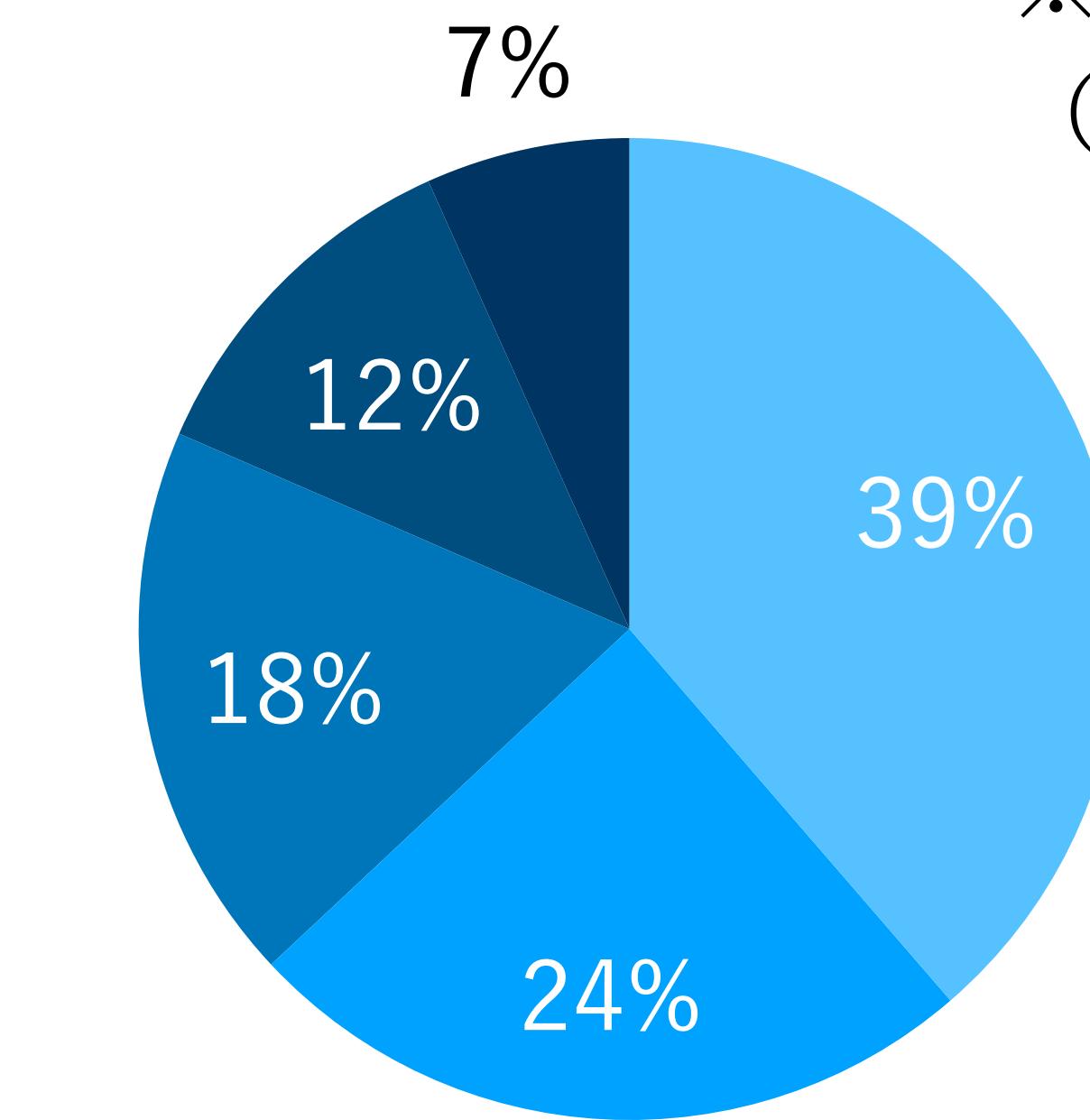
- 話は短めに！（話しそぎに注意しましょう）
- 違って当たり前！（否定より提案を）
- みんなで学び合う！（知らなくて当たり前）
- 話をつなげる！（対話を楽しみましょう）

參考資料

芦屋市の消防体制



年代別消防職員数 (R7.4.1現在)



※全体数119人
(出向者を除く)

● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代

20代、30代で6割以上を占めています。
日々の訓練だけでなく、兵庫県消防学校や
消防大学校の各種教育訓練に職員を派遣し、
専門的な知識・技術を習得しています。

火災発生状況と訓練

○火災種別

() 内は充電式電池が原因

火災種別	令和6年	令和5年	令和4年
建物	11(2)	8	9
車両	2(1)	3	1
林野	0	0	0
その他	2	3	3
合計	15(3)	14	13

○出火原因別

() 内は充電式電池が原因

出火原因	令和6年	令和5年	令和4年
たばこ	1	4	1
こんろ	3	1	2
ストーブ			1
排気管		1	
電気機器	3(3)		
電灯・電話等の配線	2	1	1
配線器具	1		
取灰			1
放火	1	1	
放火の疑い			1
その他	4	3	3
不明・調査中		3	3
合計	15(3)	14	13

○火災発生状況

火災件数については微増傾向で、令和6年中には、充電式電池を原因とする火災が3件発生しています。

○災害に備えて

近年の複雑多様化する災害に対応するため、様々な訓練を実施しています。一部をご紹介します。

【消火活動訓練】

建物火災を想定した訓練で、毎年11月に阪神地区消防本部と合同で消火技術の安全性、確実性、迅速性について競技方式で訓練実施。



【林野火災防ぎよ訓練】

芦屋市域の山林において、林野火災を想定した消火訓練を消防団と合同で毎年実施。令和7年11月には兵庫県防災航空隊と合同実施。



【水難救助訓練】

令和3年度に発足した潜水隊の水難救助技術向上を図るため、冬季を除き毎月実施。



【土砂災害救出訓練】

土砂災害で埋没した要救助者を救出する訓練を実施。

住宅火災 命を守る「4つの習慣」

住宅防火

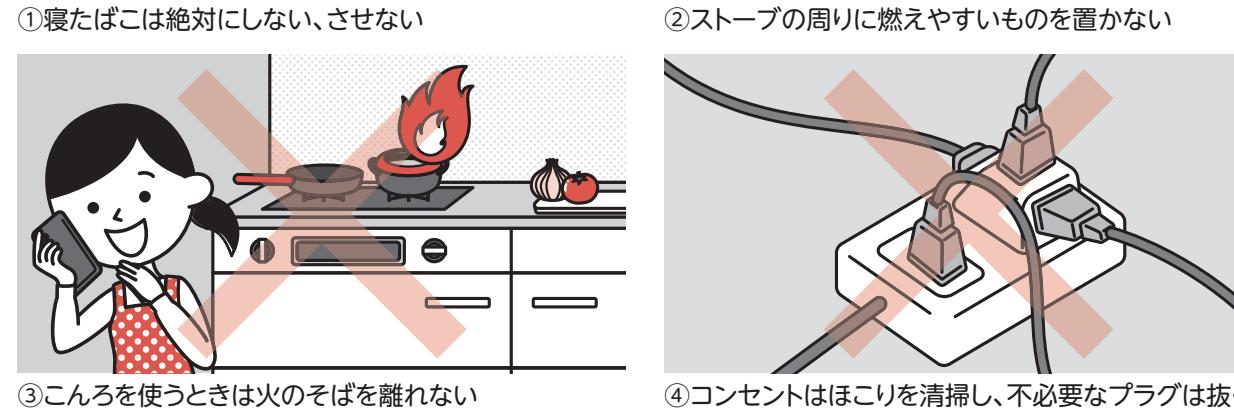
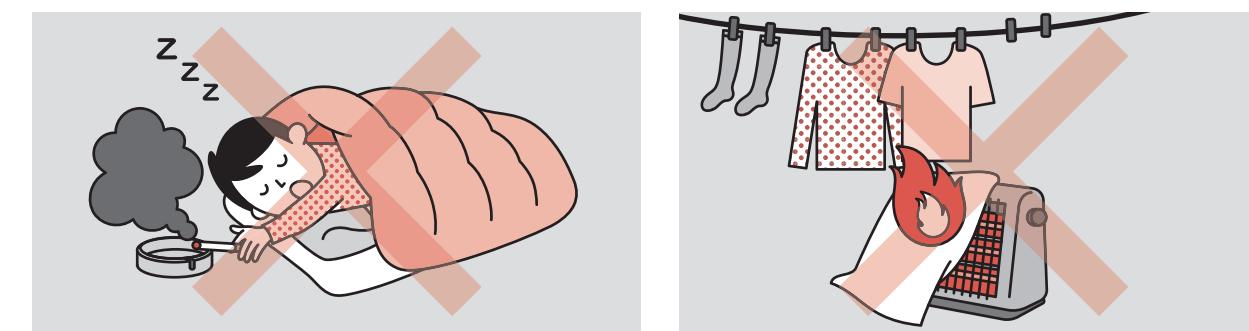
いのちを守る10のポイント

様々な火災の中でも、特に住宅で発生する火災で多数の死者が出ており、その出火原因はたばこ、ストーブ、こんろ、電気機器など、生活する上で身近にある機器が多くを占めます。

日頃から取り組んでいただく住宅防火対策として、4つの習慣、6つの対策からなる「住宅防火いのちを守る10のポイント」を取りまとめました。

是非、ご家族の皆様で住宅火災からいのちを守るための対策をご確認ください。

4つの習慣



6つの対策



1. 「寝たばこ」はしない

布団の中で吸いながら寝てしまうと、布団に火が付き、燃えてしまいます。

2. ストーブの周りに、燃えやすいものを置かない

ストーブの上や近い場所で、洗濯物を乾かさないようにしましょう。

3. こんろのそばを離れない

離れている間に、異常に熱せられ大きな火が立ち上がるかもしれません。

4. コンセントはほこりを清掃し、不要なプラグは抜く

ほこりが湿気で通電し発火するかもしれません。

令和6年の全国の火災件数は37,000件を超えています。その中で住宅火災での死者は1,000人を超え、そのうち65歳以上の方が7割以上を占めています。亡くなられた方の約4割は逃げ遅れです。初期消火も重要ですが、無理せず避難してください。ハンカチ・タオルなどを口にあて、煙を吸わないよう低い姿勢で避難してください。一度避難したら、引き返さないようにしましょう。

出典：総務省消防庁ホームページ
(https://www.fdma.go.jp/publication/movie/juutaku_bouka/items/r04_inochiwomamoru_leaflet.pdf)

芦屋市の消防団

芦屋市消防団条例定数134名

○芦屋市消防団（117名）R7.12.5現在

本団（7名）

本団付け女性消防団バーディーズ（16名）

山手分団（27名）

精道分団（17名）

打出分団（22名）

岩園分団（28名）

○年齢別消防団員数 R7.12.5現在

20歳未満・・・4名

20歳代・・・12名

30歳代・・・12名

40歳代・・・39名

50歳代・・・35名

60歳以上・・・15名

○消防団の取り組み

・災害時の招集待機・出動

・月2回の訓練

・救命講習会補助員



・自主防災訓練への参加



・保育園等に出前講座（バーディーズ）



○入団者確保のための取り組み

・SNSにて消防団活動のPR



芦屋市公式
ウェブサイト



消防団公式X
@ashiyasisbd



消防団PR動画
(YouTube)

・自主防災訓練時の広報

・各分団員から知り合いへの呼びかけ

（実際に入団される方の過半数は知り合い繋がりです。）

芦屋市の救急

1. 救急出動件数と搬送人員

出動件数・搬送人員がともに増加しており、令和6年は過去最多となりました。高齢化の進展などにより、増加傾向が続いています。

	出動件数	対前年比	搬送人員	対前年比
令和6年	6,115件	105.4%	5,450人	108.0%
令和5年	5,800件	102.8%	5,044人	106.1%
令和4年	5,642件	115.4%	4,754人	109.4%

2. 現場到着時間と病院収容時間

救急出動の時間短縮が進んでいます。令和5年の全国平均は、それぞれ約10.0分、約45.6分です。

	現場到着時間	対前年比	病院収容時間	対前年比
令和6年	7.1分	-0.2分	38.6分	-1.8分
令和5年	7.3分	-0.4分	40.4分	-1.9分
令和4年	7.7分	+0.7分	42.3分	+4.5分

3. 軽症者の搬送状況

搬送人員の4割以上が初診時に軽症と診断されています。不要不急の救急要請の減少に向けた適正利用の啓発を行っています。

	全搬送人員	軽症者数	軽症者の割合
令和6年	5,450人	2,461人	45.2%
令和5年	5,044人	2,477人	49.1%
令和4年	4,754人	2,136人	44.9%

4. 高齢者（65歳以上）の搬送状況

搬送人員に占める高齢者の割合が約70%で、特に75歳以上の高齢者の搬送が多くなっています。

	全搬送人員	高齢者の搬送数	高齢者の割合
令和6年	5,450人	3,837人	70.4%
令和5年	5,044人	3,438人	68.2%
令和4年	4,754人	3,193人	67.2%

芦屋市の救急

○救急救命士の養成

救急隊1隊につき、救急救命士が常時2名以上乗車できるよう救急救命士を計画的に養成している。
(国の基準では救急救命士1名以上)

救急救命士有資格者：57人（うち現場対応40人）

○応急手当の普及啓発など

- 救急講習会の実施

令和6年度は、92回、1,401人が参加

心停止事例における1か月後生存率

（令和5年、全国平均）

応急手当あり：14.8% 応急手当なし：7.3%

- 救急車の適正利用の啓発

- #7119の周知

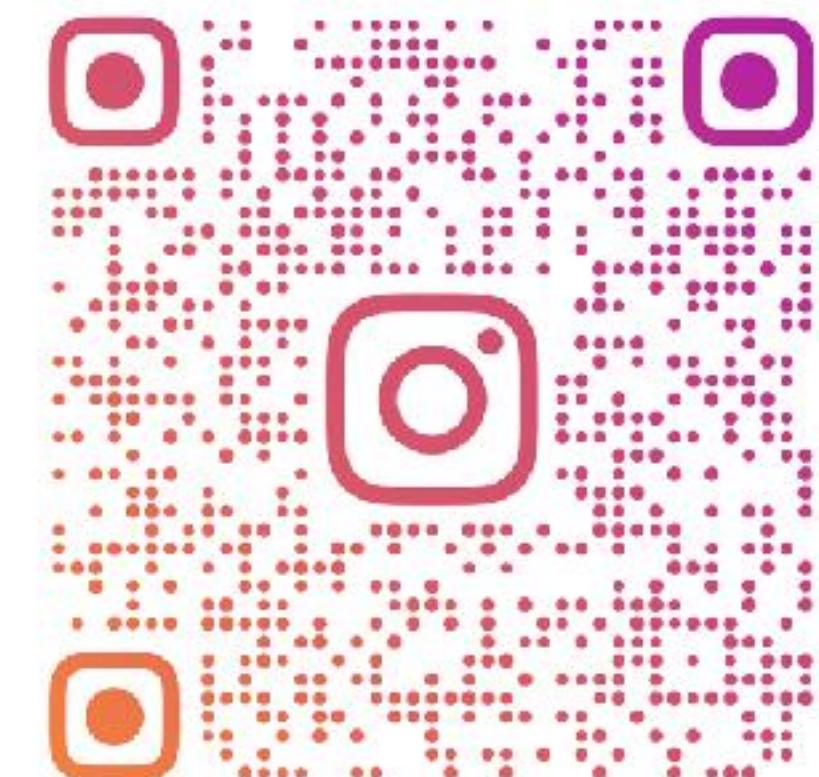
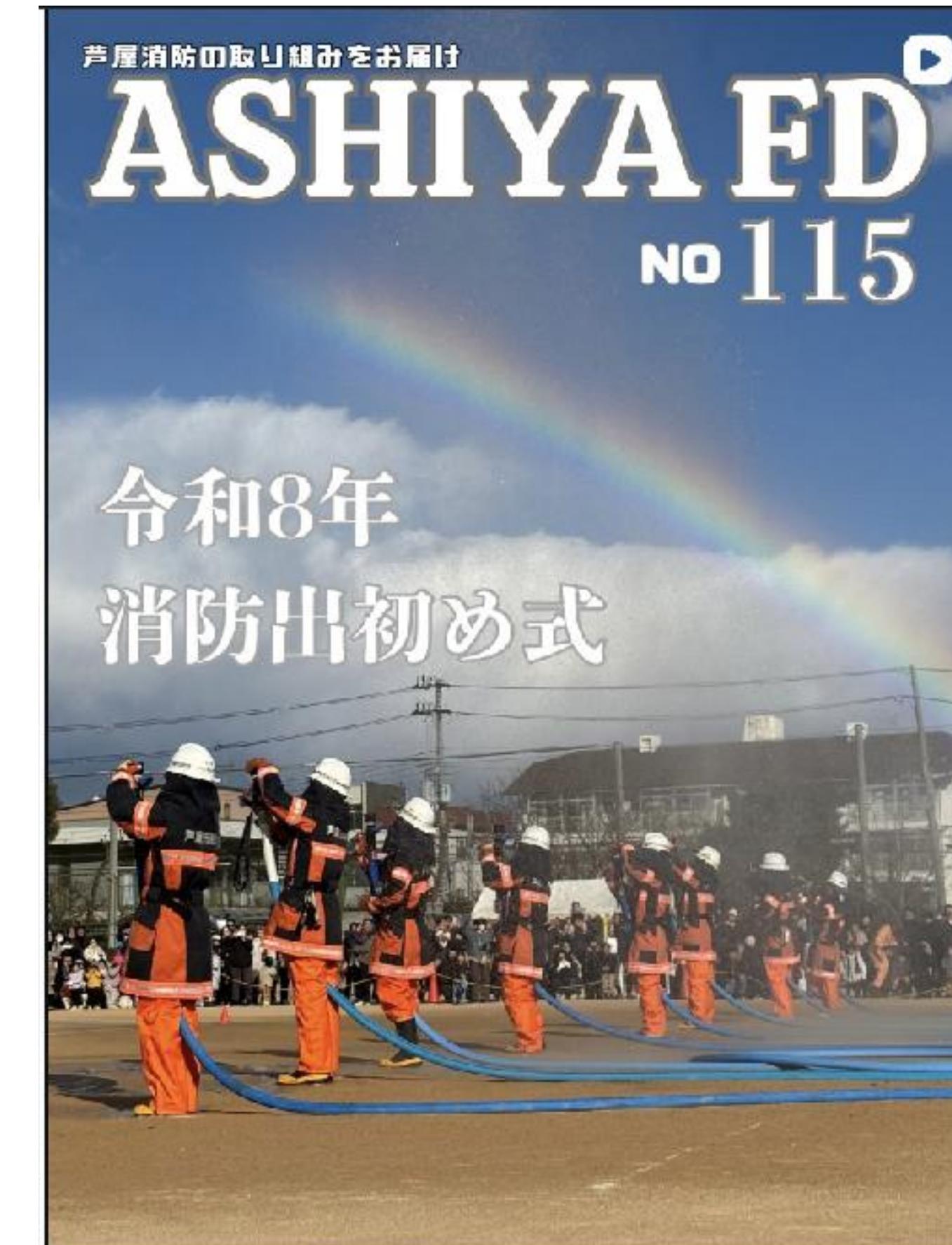
- マイナ救急の実証事業

芦屋市消防本部のInstagram

消防業務から訓練風景などを主に投稿します🔥

イベントなどの告知も発信予定🚒

フォローをどうぞよろしくお願ひします！



ASHIYA_FIRE_DEPT